

# 百年前の未来予測

よこた じゅんや  
横田 順彌

めあて

みんなの未来予測を未来に送るための  
学習計画を立てよう。

本文を読むときのポイント

- ・ 筆者が言いたいことは何か
- ・ 文章構成はどうなっているか
- ・ 段落のまとめ
- ・ 根拠となる事例の書き方

おもしろい、すごいと思ったところはどこか

「みんなの未来予測を未来に送ろう」学習計画表

学習内容						時間
①	・ 学習計画を立てる。	1				
②	・ 「百年前の未来予測」の文章構成を読み取る。	3				
③	・ 未来予測について調べる。 ・ 発表原稿を書く。	2				
④	・ パネルディスカッションの準備をする。	2				
⑤	・ パネルディスカッションを開く。	2				
⑥	・ 五十年後の未来予測文を書く。	1				

授業後、教室に掲示できるように広用紙に書くといでしょう。

1 / 11 時間目 指導略案

使用するワークシート…

## 活動のねらい

初発の感想を基にして学習への興味をもち、単元の見通しをもつようにする。

1 未来予測について関心を持つ。

題名の未来予測から「鉄腕アトム」や「ドラえもん」の中での、未来を予測して描いた街の風景等の資料を掲示し、それらを参考にさせて、これからの未来について自由に想像させる。

2 教材文を読み、初発の感想を書く。

【発問】どんな未来予測があったか、未来予測はどのようにして行っているかなど、未来予測について書かれていることに注意して読みましょう。

本文を読み、初発の感想を書く。  
初発の感想を発表させ、書かれていた内容やそれについての感想を共有させる。  
本文の最後の段落の「未来について考えてみましょう」に触れて、未来予測に興味をもたせる。

自分たちの将来を考えさせたり、冒頭のアニメの世界を想像させたりして未来予測についての楽しみ等も引き出すようにする。  
ある程度、未来予測への意欲付けができれば、「未来予測を書いてタイムカプセルに入れる」ことを教師から提案する。

3 学習計画を立て、単元の見通しをもつ。

初発の感想や本文の内容、自分たちが作った未来予測でどのようにパネルディスカッションにつなげていくかなど、表を参考にしながら単元の見通しをもたせる。

【発問】タイムカプセルに入れる未来予測を決めるために、どんな活動が必要だろう。  
学習内容の順序が決定した上で、それぞれの活動の予定時間を決める。

学習計画を立てる経験が浅い学級では、教師が必要な活動を提案しながら、どのくらい時間数が必要かを考えさせる方がよいでしょう。

評価 初発の感想を基にして学習への興味をもち、単元の見通しをもつとしている。

4 学習を振り返り、自己評価をする。

( ) 月 ( ) 日

この学習をはじめて ( ) 時間目

みんなの未来予測を未来に送ろう  
「百年前の未来予測」  
ワークシート①

名前

六年 ( ) 組 ( ) 号

百年前の未来予測を読んで

--	--	--	--	--

「みんなの未来予測を未来に送ろう」学習計画表

	⑥	⑤	④	③	②	①	
学習内容						① 学習計画を立てる。	
時間数						1	
	五十年後の未来予測文を書く。						

# 百年前の未来予測

よこた じゅんや  
横田 順彌

百年前の未来予測が  
どのような書き方になっているかを読み取る。

## 序論

未来予測記事の説明  
今から百年ほど前（二十世紀最初の年）  
「二十世紀の予言」

事実と考え・意見をとらえるために、板書で一斉指導します。

## 本論

段落	項目
②③	無線通信および電話
④	遠きよりの写真
⑤	自動車の世
⑥⑦	鉄道の速力
	テレビ電話
	エアコン
⑧	カタログはん売のふきゅう
	レーザーメス
	植物の品種改良
⑨	多くを的中してきた理由
⑩	野獣の滅亡

「無線通信および電話」の項目

例えば、「無線通信および電話」の項目では、電話網が世界じゅうに広がり、

～（中略）～

この予測にはただおどろくしかありません。

予測したこと

当時の様子  
現在の様子

「遠きよりの写真」では  
予 カラーテレビの登場  
当 テレビさえ未完成  
現 世界中の出来事が  
カラーテレビで見れる

## 結論

横田さんの考え

科学技術の進歩  
すべてがよかったとはいえない  
未来について考えるときは注意

- 2 / 11 時間目 指導略案 使用するワークシート…との一部  
活動のねらい

文章の全体からおおまかな構成を読み取り、本文の論の述べ方に気付くようにする。

1 めあてを確認し、本時の見通しをもつ。

2 本文を通読し、おおまかな構成と事例をワークシートに書く。

本文通読とワークシートの記入を各自で行わせる。（十五～二十分程度）  
早く終わった児童には、序論、結論の部分に書かれていることを要約させる。  
書き終えた後に隣同士で書いた内容の確認をさせるようにする。

3 本文の大まかな構成と事例を確かめる。

あらかじめ、序論・本論・結論を黒板に書き、本論の広用紙についても掲示しておく。

序論の要点を確認する。

結論の中から、筆者が伝えたいことをまとめる。

本論の事例の整理をする。

説明文の3部構成や段落の要点  
要旨をまとめることなど、これまで  
の学習のおさらいとなるよう  
にするとよいでしょう。

4 未来予測の事例を読み、どのようなことが書かれているか読み取る。

「無線通信および電話」の事例で、一文ごとに何について書いているか考えさせながら読ませる。

予測したこと 当時の様子 現在の様子 が書かれて

いることを確認する。

「遠きよりの写真」において、同じような書き方がされていることを確かめさせる。

「ここでは、事実と考えや  
意見をとらえて読むこと  
が必要になりますね。」

評価 教材文のおおまかな構成や未来予測の述べ方をとらえながら読むことができる。

5 学習を振り返り、自己評価をする。

ワークシートの【学習の振り返り】を記入して、「2 本文を通読し、おおまかな構成と事例をワークシートに書く。」の作業について自己評価をする。



# 百年前の未来予測

よこた じゅんや  
横田 順彌

めあて

ほとんどの未来予測がなぜ当たったのか、読み取るつ。

「無線電信および電話」の項目

例えば、「無線電信および電話」の項目では、  
電話網が世界じゅうに広がり、

この予測にはただおどろくしかありません。

「遠きよりの写真」

予 カラーテレビの登場  
当 テレビさえ完成していない  
現 世界中の出来事をカラーテレビで見ることができる

「自動車の世」

予 自動車全盛時代が来る  
当 自動車が輸入されたばかり  
現 自動車全盛の時代になった

「鉄道の速力」

予 石炭が必要でなくなり、けむりが出なくなる  
車内に冷暖ぼつ設備が整う  
時速二百四十キロになり、東京・神戸間を二時間で走る

「未来予測に生かす予測（主張）」

当 石炭で走る蒸気機関車しかなかった  
新橋・神戸間を十七時間二十二分もかかっていた  
現 新幹線「のぞみ号」

文章表現

・ただ、ありません  
・じじいさか、ささえ  
・でじじい  
・もしかしたら〜かも

全く根きよのない予測がほとんどなかった

## 3 / 11 時間目 指導略案

使用するワークシート…

### 活動のねらい

未来予測の事例の書き方を読み取り、未来予測を行う上で必要な論の述べ方や表現の工夫に気付くことができるようにする。

1 めあてを確認し、学習の見通しをもつ。

2 前時で使った「無線電信および電話」の例を提示し、未来予測の述べ方について確認する。  
一文ごとに何について書いているかを考えさせながら読ませる。

予測したこと

当時の様子

現在の様子

が書かれていることを確認する。

3 他の事例について、確認した3点に着目して読む。

教材文に 予—— 当—— 現—— の線を引かせる。  
事例ごとにワークシートにまとめ、事例ごとに発表させる。

4 九段落の「全く根きよのない予測がほとんどなかった。」という文に着目させ、予測をする上で根きよとなるものが必要なことを押さえる。

【発問】 たくさんの予測が的中したのはなぜでしょう。

5 自分たちの未来予測をすることについて必要な事項を確認する。

未来予測を行う上で必要なポイント

「予測」「当時（今）の様子と予測につながった根きよ」  
作者の文章表現方法で使えそうなもの  
ただおどろくしかありません。

まだカラーテレビどころか、テレビさえ。

現在の新幹線「のぞみ号」そのままとっていいでしょう。

もしかしたら、筆者は外国文明の発達ぶりを見てきた人かもしれません。等

評価 未来予測記事を行う上で必要な論の述べ方や、表現の工夫に気付くことができる。

6 学習を振り返り、自己評価をする。

みんなの未来予測を未来に送ろう  
「百年前の未来予測」  
ワークシート③

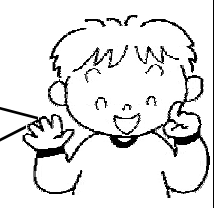
名前  
六年 ( ) 組 ( ) 号

めあて

無線電信 および 電話															項目			
現在	当時	予測	現在	当時	予測	現在	当時	予測	現在	当時	予測	現在	当時	予測	現在	当時	予測	内容
																		書かれていること 電話網が世界中に広がり、東京にいる人が外国にいる友達と話することができるようになる。 一八九〇年の電話加入者はたったの七十四人 明治の終わりでも日本全国で約四万台 現在の国際電話そのもの

<b>【学習の振り返り】</b> ◎…よくできた ○…できた △…もう少し	
本論の書き方を、事実と筆者の考えや意見に分けることができましたか。	◎   ○   △
筆者の表現の工夫を見つけることができましたか。	◎   ○   △
感想	

筆者の表現の工夫  
(納得させるような書き方)にも目を向けてみよう



百年前の未来予測  
めあて

よこた じゅんや  
横田 順彌

筆者が読み手に伝えたいことを読み取り、  
未来を考えるときの注意点をつかもう。

科学技術の進歩によって

- 11 段落
- ・ 電話やカラーテレビが当たり前
  - ・ インターネットの登場
  - ・ 自動車や鉄道のスピードが向上
  - ・ 医学の進歩
  - ・ 食生活の向上

私たちの生活は、百年前の未来予測以上に便利になった。

しかし

- 12 段落
- ・ 多くのエネルギーの消費
  - 「地球温暖化」の原因の一つ
  - ・ 交通事故の増加
  - ・ 乗り物の騒音
  - 深刻な問題

科学技術の進歩によって得られた結果が、すべてよかったとは言いきれない。

筆者が伝えたいこと

未来について考えるときには、このようなことも、  
しっかり頭の中に入れておかななくてはなりません。

よいことばかりでなく、  
問題点も考える必要がある。

4 / 11 時間目 指導略案 使用するワークシート…④

活動のねらい

科学技術の進歩がもたらした結果に対する筆者の考えや未来を考える上での留意点について読み取らせる。

1 めあてを確認し、学習の見通しをもつ。

2 十段落から十三段落までを読み、筆者が言いたいことをまとめる。

- ① 各段落の「事実や事例」と「筆者の考え」に線を引きながら読ませる。
- ② ワークシートにまとめる。

評価 事実や事例と筆者の考えを区別しながら読み取ることができる。

事実と意見の区別  
・ 文末表現に注意させる。  
・ 事実（具体）から導き出した答えの部分を見付けさせる。

3 段落の関係図を作りながら、筆者が一番伝えたいことを考える。

- ① ワークシートを基に、段落に書かれていることを発表する。

- 十一段落の事実・事例及び筆者の考え
- 十二段落の事実・事例及び筆者の考え

② ①の接続語を意識させるようにし、十一段落と十二段落のどちらを筆者は伝えたいのか考えさせる。（個人→グループ→全体）

【発問】筆者が、読み手に強く伝えたいのは、十一段落と十二段落のどちらだと思いますか。

4 未来について考えるときの筆者の意見を読み、自分たちが未来予測をする上での注意点について確認する。

- ① このようなことが何を指すのか確認する。
- ② 自分たちが未来予測をする上で注意することを確認する。

評価 段落の関係から筆者の伝えたいことの軽重を考え、自分たちの未来予測に生かそうとすることができる。

5 学習を振り返り、自己評価をする。

( ) 月 ( ) 日

この学習をはじめて ( ) 時間目

みんなの未来予測を未来に送ろう

「百年前の未来予測」

ワークシート④

めあて

名前

六年 ( ) 組 ( ) 号

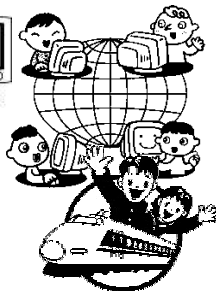
筆者の考え

によって

事実・事例

1 1 段落

( 接続語 )



事実・事例

1 2 段落

筆者の考え

筆者が伝えたいこと

未来予測の注意

未来について考えるときには、この  
ようなこともしつかり頭の中に入れて  
おかななくてはなりません。

【学習の振り返り】

◎:よくできた

○:できた

△:もう少し

事実や事例と筆者の考えを区別して読むことができたか。

◎ ○ △

感想



# みんなの未来予測を未来に送ろう

めあて

未来予測をするための情報を集めよう。

未来予測に生かす  
 予測(主張)  
 当時の様子(根きよ)  
 文章表現  
 ・ただありませぬ  
 ・どこるか、ささえ  
 ・でしよう。  
 ・もしかしたらかも

書き方  
 《未来予測》【分野】  
 予測  
 根きよ  
 利点  
 問題点

この2枚はこれまでの授業で使ったものを掲示する。

何を調べる  
 ・現在の様子  
 ・最新の情報  
 ・現在の様子と昔の様子の变化

何を使って調べる  
 ・図書の本  
 ・辞書・辞典  
 ・新聞(子ども新聞)  
 ・インターネット  
 ・インタビュー

5 / 11 時間目 指導略案 使用するワークシート…  
 活動のねらい

「予測」「根きよ」「現在の様子」「利点」「問題点」の四つのポイントをふまえて情報を収集させる。

1 めあてを確認し、学習の見通しをもつ。

2 情報を収集する際の未来予測の観点を確認する。  
 未来予測を書くためのポイントを思い出す。

予測  
 現在の様子(根拠)  
 利点や問題点

「同じ分野」とありますが、パネルディスカッションのグループを作るためのものです。  
 グループで分野を決定してから調べる項目を決める方法と、調べる項目をそれぞれが決めたあとに分野別のグループにまとめる方法が考えられます。  
 学級の状態に合わせて考えてほしいところです。

予測が空想的にならないように、現在の様子(根拠)を明確にすることを伝える。  
 同じ分野でパネルディスカッションを行うので、同じ情報はかりにならないように気を付けさせることに留意しておく。

3 調べることを明らかにし、調べる方法を確認する。

何を調べるのか意見を出させ、見通しをもたせる。  
 調べる方法において、児童数の数だけ準備できないものもあるので、時間の制限や決まりを確かめておくことよ。  
 例 インターネットの情報は、必要な分だけを印刷する。(範囲指定印刷)  
 の本や新聞は数が足りないので、コピーを取る。など

評価 意欲をもつて調べ学習を行っている。

四つのポイントを踏まえ、必要な資料を取捨選択しながら探している。

4 学習を振り返り、自己評価をする。

調べるための時間は、本時のみでは足りないと考えられるので、休み時間や家庭学習の時間に調べさせるようにしていきます。

( ) 月 ( ) 日

この学習をはじめて ( ) 時間目

みんなの未来予測を未来に送ろう  
「百年前の未来予測」  
ワークシート⑤

名前

六年 ( ) 組 ( ) 号

めあて

--

予測

--

現在の様子（根きよ）

--

利点

--

問題点と解決案

--

【学習の振り返り】 ◎…よくできた ○…できた △…もう少し

四つのポイントを考えて調べることができましたか。 ◎ ○ △

情報集めが積極的に行いましたか。 ◎ ○ △

感想

--

# みんなの未来予測を未来に送ろう

めあて

パネルディスカッションに向けての未来予測の原こうを書こう。

書き方

《未来予測》【分野】  
 予測  
 現在の様子（根きよ）  
 利点  
 問題点

説得力のある言い方・書き方

未来予測に生かす  
 予測（主張）  
 当時の様子（根きよ）  
 文章表現  
 ・ただくありません  
 ・〜どころか、〜さえ  
 ・〜でしょう。  
 ・もしかしたら〜かも

すいこうする

○ 予測、現在の様子（根きよ）、利点・問題点が書かれて  
 いるか確認する。  
 ○ 聞き手が納得するような言い方・書き方になっているか  
 声を出して読む。

## 6 / 11 時間目 指導略案

使用するワークシート：⑥

活動のねらい

未来予測をする上での四つのポイントをふまえて原稿を書くことができるようにする。

1 めあてを確認し、学習の見通しをもつ。

2 四つのポイントを確認し、未来予測の原稿を書く。

① 四つのポイントを確認する。

※ 付せんに、四つのポイント【予測、現在の様子（根拠）、利点、問題点】を簡単に書かせる。

② 付せんに並びかえながら、原稿の構成を考えさせる。

③ 付せんに基にして、未来予測の原稿を書かせる。

※ 聞き手が納得するような言い方・書き方については、本文の書き方などを参考にさせる。

3 書いた原稿を読み、推敲する。

○ 推敲を行わせる。（次の視点を参考にして）

◎ 四つのポイントがきちんと書かれているか。

◎ 聞き手が納得するような言い方・書き方になっているか。

※ 推敲する必要がある部分は赤鉛筆などで書かせる。

評価 四つのポイントをふまえて、構成を考えながら原稿を書いている。

4 原稿を音読する。

○ 次時に行く役割を決める検討会に向けて自分の原稿を読ませる。

5 学習を振り返り、自己評価をする。

直接、ワークシートに書いてもかまいません。

( ) 月 ( ) 日

この学習をはじめて ( ) 時間目

みんなの未来予測を未来に送ろう

「百年前の未来予測」ワークシート⑥

名前

六年 ( ) 組 ( ) 号

めあて

Blank area for writing the goal (めあて).

																構成案 (付せん)							
問題点と解決案				利点				現在の様子 (根きよ)				予測				原こう							

【学習の振り返り】 ◎:よくできた ○:できた △:もう少し

構成を考えて、原こうを書くことができましたか。 ◎ ○ △

原こうをすいこうすることができましたか。 ◎ ○ △

感想	
----	--

# みんなの未来予測を未来に送ろう

めあて

友達の話聞いて、パネルディスカッションの役割を  
決めよう。

## パネルディスカッション

役割

- 司会者
- パネラー（討論者）
- フロア（参加者）

教科書では討論者、参加者という表記になっています。しかし、学校現場では、パネルディスカッションにおいてはパネラー、フロアの呼び名がよく使われていることから、このような表記にしました。児童の実態に応じて説明が必要です。

流れ

グループごとに、それぞれの予測を発表し合う。  
 パネラー（三人）、司会者（一人）を選ぶ。  
 意見発表の順番や会の進め方を話し合う。

- 「パネルディスカッション」の手順
- 討論の内容とパネラーのしようかい…（司会）
  - 各パネラーの意見発表…（パネラー）
  - パネラーによる討論…（パネラー）
  - 討論内容の要約…（司会）
  - フロアからの質問と応答…（フロア）
  - フロアも加わったの全体討論…（全員）
  - 討論全体のまとめ…（司会者）

7 / 11 時間目 指導略案 使用するワークシート… 及び進行表

活動のねらい

パネルディスカッションを行うための役割や進行の仕方について知り、友達の発表を聞いてパネラーを選ぶことができるようにする。

1 めあてを確認し、学習の見通しをもつ。

2 パネルディスカッションをする目的を確認する。

説得力のあるものにするためにパネルディスカッションを行うことを確認する。  
 （一時間目の学習計画を確認する。）

3 パネルディスカッションの役割や進め方を理解させる。

役割について教科書（六十五、六十六ページ）の挿絵を見せながら説明する。  
 進め方について、ビデオや教科書添付のCDを視聴させて流れを理解させる。

視聴覚教材がない場合は、教科書に掲載されている討論会の一部を役割読みする。  
 それぞれの役割について「進行表」を見ながら手順を確認する。

ここでは、司会の進め方が大変重要であることや、パネラーが自分の考えを分かりやすく、論理的に話すこと、フロアがそれぞれの意見の相違点をとらえて聞き、より詳しく説明を求める質問を行うことなどを補足する必要がある。

パネラー、フロアの呼称と教科書での呼称が違います。役割の呼称については説明が必要です。

4 グループごとにパネルディスカッションの役割を決める。

グループ内で順番に自分の未来予測をスピーチする。  
 聞き手は四つのポイントを基に、メモを取りながら聞く。

パネルディスカッションの役割を決める。  
 パネラーが同じ内容の未来予測にならないように決める。

フロアは、質問をすることでパネラーの考えを引き出す役目があることを確認する。

ここではまず、パネラーを選びます。スピーチの内容に着目して選ばせます。その後、パネラー以外とフロアから選ばせません。

評価 パネルディスカッションを行うための役割や進行の仕方について知り、友達の発表を聞いてパネラーを選ぶことができる

5 学習を振り返り、自己評価をする。

( ) 月 ( ) 日

この学習をはじめて ( ) 時間目

みんなの未来予測を未来に送ろう

「百年前の未来予測」

ワークシート⑦

名前

六年 ( ) 組 ( ) 号

友達の発表を聞いて、パネルディスカッションの役割を決めよう

※発表がすんだら、役割を決め、名前の上に記録しましょう。

役割	名前	予測	現在の様子	利点・問題点	判定
					<input type="checkbox"/> なっとくした <input type="checkbox"/> もう少し
					<input type="checkbox"/> なっとくした <input type="checkbox"/> もう少し
					<input type="checkbox"/> なっとくした <input type="checkbox"/> もう少し
					<input type="checkbox"/> なっとくした <input type="checkbox"/> もう少し
					<input type="checkbox"/> なっとくした <input type="checkbox"/> もう少し
					<input type="checkbox"/> なっとくした <input type="checkbox"/> もう少し

【学習の振り返り】 ◎:よくできた ○:できた △:もう少し

パネルディスカッションの役割を理解することができましたか。 ◎ ○ △

四つのポイントに気をつけて友達の発表を聞くことができましたか。 ◎ ○ △

感想

感想記入欄

【パネルディスカッションの進行表】

	司会者（2人）	パネラー（3人）	フロア
開式	皆さんこんにちは。今日の討論会の司会を行う▲▲と●●です。よろしくお願いします。	「お願いします」	「お願いします」
テーマ確認 パネラーの紹介 会の流れの確認 (1分)	<p>討論のテーマは、〇〇です。</p> <p>今日のパネラーを発表順に紹介します。 最初にAさん、次にBさん、最後にCさんです。</p> <p>次に討論会の流れを説明します。 まず始めに、パネラーからの提案を行ってまいります。 次にパネラーだけで意見交換をしてまいります。 その後、フロアの皆さんにも加わってもらい、全体で意見交換をしていきます。 フロアのみなさんは、パネラーの人たちがどんな考えを持っているのかしっかり聞いてください。また、1人1回は発言できるようにがんばりましょう。</p>	<p>しょうかいのときは立って礼をする。</p>	
各パネラーの発表 ( )分×( )人 =( )分	<p>パネラーの発表に入ります。 まず、Aさんから発表をしてまいります。 (パネラーにそれぞれの意見を発表してもらおう) ありがとうございました。</p>	<p>自分の順番になったら、自分の考えを発表する。(全員に聞こえる大きな声で)</p>	<p>パネラーの意見・根拠(現在の様子)・利点・問題点をメモしながら聞く。</p>
パネラーの討論 ( )分	<p>それでは、3人でお互いに質問や意見があったらお願いします。 (質問・意見が出た場合)～という質問(意見)が出ましたが〇さんどうですか？</p>	<p>質問や意見を述べる。質問や意見に対しては、ていねいに答える。</p>	<p>3人の話を簡単にメモしながら聞く。</p>
討論内容の要約 (1分)	<p>パネラーのみなさん、ありがとうございました。 それでは、パネラーの話し合いの内容をまとめてみたいと思います。 Aさんは・・・Bさんは・・・Cさんは・・・ということです。</p>		
フロアからの質問 ( )分	<p>では、フロアのみなさんから質問はありませんか。 (質問が出た場合)他に～さんと関連した質問はありませんか？ ★似たような質問はまとめて受ける。</p>	<p>フロアからの質問をよく聞き、ていねいに答える。分からない場合は正直に分からないことを伝える。</p>	<p>よく分からなかった点や確かめておきたい点について質問する。(意見は次の全体討論で述べる)</p>
全体討論 ( )分	<p>それでは、〇〇〇〇〇について全員で話し合いたいと思います。 意見はありませんか？</p>	<p>自分の発表を納得してもらえるように、言い足りなかった部分や他の事例を述べる</p>	<p>自分の立場(賛成・反対)を明らかにし、自分の考えと同じ点や違う点に注意して意見を述べる。</p>
討論全体のまとめ (1分)	<p>これで～についての全体討議を終わります。 最後に話し合いのまとめをします。(話し合いの中で中心になったことを話す。)</p>		
閉式	<p>これで、〇〇についてのパネルディスカッションを終わります。 みなさん、ご協力ありがとうございました。</p>	<p>「ありがとうございました」</p>	<p>「ありがとうございました」</p>

# みんなの未来予測を未来におくろう

めあて

パネルディスカッションに向けての準備をしよう。

## ① 役割の練習

・司会者

◇進行表での進行の練習

◇パネラーの発表内容の要約文作り

・パネラー

◇発表の練習（内容・話す姿勢・発声）

◇予想質問への答え

・フロア

◇パネラーへの質問作り（グループ内）

## ② グループ別リハーサル

・司会

◇進行表をなるべく見ずに相手を見て話す。

◇テンポよく話を進められるようにする。

・パネラー

◇参加者や他のパネラーを見て伝えるように話す。

◇他のパネラーの考えをメモしながら聞く。

・フロア

◇パネラーの考えを引き出す質問をする。

◇かたんにメモをとりながら聞く。

「どんなことに注意して練習したらよいか」ということについて、子どもたちから出された意見をまとめて、書き留めることができたらいいですね。

## 8 / 11 時間目 指導略案

使用するワークシート：⑧及び進行表

活動のねらい

パネルディスカッションに向けて、意欲的に準備に取り組むようにさせる

### 1 めあての確認をし、学習の見通しをもつ。

### 2 パネルディスカッションの練習をする。

#### ① それぞれの役割に合わせた練習や活動を行わせる。

○司会者

進行表での練習

パネラーの原稿の要約文づくり

○パネラー

発表の練習（姿勢や発声も含めて）

予想質問への対応

○フロア

パネラーへの質問作り（パネラーの考えを引き立たせるため）

この部分の練習は個人で練習できるものであるため、事前に家庭学習などを利用して行わせてもよいでしょう。本時では、リハーサルに十分時間を取ることにするとよいでしょう。

#### ② グループ別リハーサルを行わせる。

※ はじめに、どのようなことに気を付けてリハーサルを行うか考えさせ、発表させる。

※ 児童の発言以外にも押さえないことは、教師が補足する。

#### ③ グループでリハーサルについて振り返りをさせる。

※ 違う役割の友だちに対して、よかった点や改善した方がよい点を交流させる。改善した方がよい点に関しては、どのように改善したらよいかというアドバイスを加えるようにさせる。

評価 意欲的にパネルディスカッションに向けての準備に取り組んでいる。

### 3 学習を振り返り、自己評価をする。





# みんなの未来予測を未来に送ろう

めあて

それぞれの役目を果たして、パネルディスカッションを成功させよう。

## 第一回パネルディスカッション

### 分野【ロボット】

司会 ○○○○  
□□□□

### パネラー

○○○○	「	項目	」
○○○○	「	項目	」
○○○○	「	項目	」

注) 授業が始まる前に板書を終わておく。各分野の内容は、そのグループの司会に書かせておく。

### 「パネルディスカッション」の手順

- 討論の内容とパネラーのしようかい… (司会)
- 各パネラーの意見発表… (パネラー)
- パネラーによる討論… (パネラー)
- 討論内容の要約… (司会)
- フロアからの質問と応答… (フロア)
- フロアも加わっての全体討論… (全員)
- 討論全体のまとめ… (司会者)

討論会は1グループについて1単位時間が限度であると考えます。パネルディスカッションの時間は指導書では3時間計画になっていますが、学級の実態に合わせて時数の確保を行うようにしたほうがよいでしょう。

9・10 / 11 時間目 指導略案 ※パネルディスカッションの時間はこの略案及びワークシートを使う

使用するワークシート…⑨及び進行表

### 活動のねらい

それぞれの役目を果たしながら、パネルディスカッションに参加することができるようにする。

◆ 事前に、本時のワークシートは児童に渡しておき、発表者と未来予測の項目を書かせておくことよい。

### 1 前時の振り返り及びめあてを確認する。

- ① パネルディスカッションの手順を確認し、話合いに意欲をもたせる。
- ② めあてを読ませ、役割について注意すべき点を確認させる。

※ 司会は、進行表に沿って進めさせる。

※ パネラーは、フロアや他のパネラーに分かりやすく話すようにさせる。

※ フロアは、四つのポイントについてメモをさせ、分かりやすい発表を考えさせながら聞くようにさせる。

### 2 パネルディスカッションを行う。

※ 意見交換が進まなかったり、不適切な方向に話し合いが進んだりした時などは、司会に助言するなどして教師が介入する必要がある。

評価 未来の生活に興味をもち、それぞれの役目を果たしながらパネルディスカッションに参加している

自分の立場を明確にして話したり、相手の立場を考えながら話を聞いたり質問したりすることができる。

### 3 パネルディスカッションを振り返る。

- ① ワークシート⑨を書く。

めあてに対しての自己評価を行わせる。

友達のよいところを具体的に書く。

- ② 書いたことを発表させる。

※ ここでの発言が未来予測の清書につながるように、内容のよさを取り上げ、称賛する。

パネルディスカッションの時間を30分程度にし、振り返りの時間を十分に確保してほしいと思います。討論会での吟味が最終目的の「未来予測を常に向かわせる方向にすることが大切です。」

### 4 次時の予告をする。

- ◆ 次のグループの紹介を行う。
- ◆ 次時が未来予測を書く活動であれば、その旨を伝える。

( ) 月 ( ) 日

この学習をはじめて ( ) 時間目

みんなの未来予測を未来に送ろう

「百年前の未来予測」

ワークシート⑨

名前

六年 ( ) 組 ( ) 号

めあて

めあて記入欄

### テーマ（分野）

テーマ（分野）記入欄



「発表を聞くととき」かんたんなメモを取りましょう。  
「発表終了後」パネラーの発表を評価してみよう。  
とてもわかりやすかった：◎ まあまわかりやすかった：○  
わかりにくいところがあった：△

パネラー	予測	根きよ	利点・問題点
( )			
( )			
( )			

### 振り返り

#### 自分の役割

自分の役割について振り返りましょう

自分の役割振り返り記入欄

今日のパネルディスカッションで、参考になったことやいい考えだと思ったことを  
思い出して書きましょう。

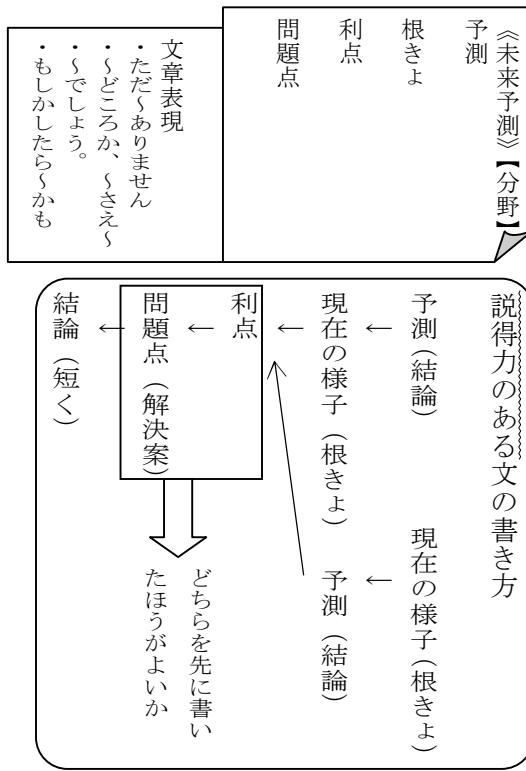
今日の振り返り記入欄

# みんなの未来予測を未来に送ろう

めあて

タイムカプセルに入れる五十年後の未来予測を、より説得力のある文に書きかえよう。

教科書から学ぶ説得力のある未来予測



友達に学ぶ説得力のある未来予測

※ パネルディスカッションの中で出てきたよい例を書き留めておき、提示する。

11 / 11 時間目 指導略案

使用するワークシート：⑩及び⑪

活動のねらい

これまでの学習を踏まえ、自分の未来予測文をより説得力のあるものに書きかえることができるようにする。

1 めあてを確認し、学習の見通しをもつ。

2 これまでの学習から、説得力のある未来予測文の特徴を確認する。

① 教材文から学んだ四つのポイントや表現の工夫を確認させる。

② パネルディスカッションで出た説得力のある文の特徴を確認させる。

3 各自の未来予測文を書きかえる。

◇ 各自で書きかえさせ、ペアやグループで読み合いながらよりよいものにする。

評価 説得力のある文章になるよう、これまでの学習を生かして書きかえることができる。

4 単元全体を振り返り、自己評価をする。

① 単元の振り返りを行い、自己評価をワークシート⑩に書かせる。

② 自分なりに成長したことや、この学習で身に付けたもの、楽しかったことなどを全体の場で発表させる。(教師が、児童の気付かない部分を補足して紹介してあげるとよいでしょう。)

この学習の終末を考える

・ 出来上がった未来予測を廊下等に掲示し他の学級の児童にも見ってもらうようにする。

・ 全員の未来予測を冊子にまとめ、他の学級や学年に見てもらう。

(数冊作っておけば、次年度の参考として残しておくこともできる。)

・ 朝のスピーチ等で未来予測を発表させる。(パネラーとして発表していない児童に発表の場を設定する)

本単元を後の単元に生かす

『未来へのメッセージ』を書こうの新聞や文集をつくる単元において今回の未来予測参考にして書かせたり、他の学習で、本単元で学んだ書き方を活用させたりして、習得と活用をくり返しながらい今回学んだ知識・技能の習得につなげることが出来ます。



みんなの未来予測を未来に送ろう  
「百年前の未来予測」

ワークシート ⑩

名前 前 六年 ( ) 組 ( ) 号

◆この学習全体で身に付けた力を確認しましょう。

(下のらんに◎○△を書きましょう)

身に付けたい力			
聞く	話す	書く	読む
友だちの話聞いて、話合いの目的にそつた質問を考えることができましたか。	話し手の考えや意見、根きよなどをとらえながら聞くことができましたか。	説得力のある話し方になるように表現や話の組み立てを工夫することができましたか。	事実と意見(考え)をとらえて読むことができたか。 段落どうしの関係や説得させるための表現から、筆者の考えを読み取ることができましたか。 未来予測の四つのポイントや調べる内容に合わせて、情報を集めることができたか。 自分が書いた文章を読み返し、よりよい文章になるようにすいこうすることができましたか。 自分の意見や調べたことを分かりやすく話すことができたか。

◆ががんばったことやこうすればよかったと思つたこと、楽しかつたことを書きましょう。

--	--	--	--

◆この学習でためになつたことやこれからの学習や生活の中で生かせそうなことを書きましょう。

--	--	--	--